

# 資料館だより

第 16 号

平成 4 年 3 月 31 日

編集・発行 武蔵村山市立歴史民俗資料館

武蔵村山市本町5-21-1 TEL 0425(60)6620



史料 A : 打毀諸道具書上帳 (中藤村文右衛門分)

# 「打毀諸道具書上帳」について

東京都囑託員 寺 町 勲

天明4年(1784)2月28日夜九つ(午前0時)の鐘を合図に、箱根ヶ崎村池尻(狭山池)に集まった百姓たちは2~3万人にもなった。彼等は一様に打ち続く生活苦にさいなまれていた。群集の中では号令をかける者も決まっていたが、誰かが「山王前」といって、大勢の者が「山王前」「山王前」と叫びだした。山王前とは、中藤村の百姓で在方商人として富を成した文右衛門家のことである。

大群衆は行動を起こした。斧・掛矢・鋸・鋤・鍬な

どを持った2~3百人の若者たちが先頭に立ち、まさに百姓軍のようであった。そして、先陣が横田村に達しても、後陣はまだ箱根ヶ崎村であったという。

百姓軍は文右衛門の家を散々に打ち壊したが、さらに五左衛門・佐兵衛・与七そして高木村庄兵衛方にも襲いかかり、これを打ち壊した後、29日朝巳の刻(午前10時)ごろに解散するという大事件になった。

下記の史料は、この時の被害状況を書き留めたもので、本館所蔵の渡辺家文書の中にある。

史料 A

天明四辰年三月  
打毀諸道具書上帳  
多摩郡中藤村 文右衛門

- 一 建家ヶ所 梁間六間 桁行拾四間
- 一 大戸三本 内壺本潜り付 紛失
- 一 三尺戸式拾式本 紛失
- 一 障子拾五本
- 一 三間ニ七間長家ヶ所 扉式枚 其外こし板かべ不残打毀申候油
- 一 式間梁五間土蔵ヶ所 道具釜等迫不残打毀申候
- 一 三間ニ七間不残打毀申候かべ少々打毀申候 満ど戸前不残打毀申候
- 一 三間ニ七間不残打毀申候 雑穀蔵 戸前満ど不残打毀壁少々打毀申候 雑穀殊
- 一 式間四間土蔵ヶ所 雑穀蔵 之外乱表致シ改メ見候處都合四五拾俵相見
- 一 三間ニ五間土蔵ヶ所 質物蔵 不申候
- 一 式間五間土蔵ヶ所 雑穀蔵 戸前満ど敷板質棚不残打毀申候
- 一 式間半ニ五間薪小家ヶ所 少々打毀申候 但し此土蔵入置候錢式百八拾貫程
- 一 くら門 壺ヶ所 扉式枚
- 一 式間五間セツいん壺ヶ所 壁腰板戸打毀申候
- 一 車井戸式ヶ所 うら紋
- 是ハ車ヲ切落シ中江俵物其外色々打込申候

- 一 式間ニ三間物置ヶ所 少々壁打毀申候
- 一 疊四拾六疊 切ちらし申候
- 一 濁り酒 大小式拾式 不残打毀申候
- 一 膳碗 少々紛失仕候

右之通相遠無御座候以上  
天明四辰年二月

差上申一札之事

帳面表穀物買高

- 一 米百式拾六俵 一大豆三拾九俵
- 一 小豆三拾七俵式斗八升五合
- 一 小麦千三百式拾七俵六斗四升七合
- 一 大麦四拾俵 一白麦拾七俵
- 右六口合 千五百八拾六俵九斗三升式合
- 帳面表穀物買高
- 一 米式拾八俵二斗式升 一餅米壺俵式斗
- 一 白米四斗五升八合 一大豆式拾式俵三升
- 一 小麦拾八俵壺斗五升 一小麦千三百式拾俵

右六口合 (後欠)

史料 B

天明四辰年三月  
打毀諸道具書上帳  
多摩郡中藤村 五左衛門

- 一 建家ヶ所 梁間四間 桁行拾壺間
- 中藤村百姓 五左衛門
- 柱切掛ヶ内六七本切折ゑん打破り障子不残

打破り申候

一戸三拾五本 紛失

一障子七本 同断

一畳二十枚 同断

一壁腰板不残打破り申候

一式間四間土蔵壱ヶ所

是ハ戸前破り膳椀二十人前皿鉢四五人前カ

満式ツ鍋十壱紛失仕候

一式間八間長家壱ヶ所

是ハ腰板打破り内ニ入置炭とふみから臼其

外桶鉢之類不残打破り申候

一式間四間半セツいん壱ヶ所

是ハ腰板打破り申候

右之通相遠無御座候已上

天明四年辰二月

中藤村百姓

五左衛門

史料 C

天明四辰年三月

打毀 諸道具書上帳

多摩郡中藤村 佐兵衛

一建家壱ヶ所 梁間四間 桁行拾壹間

中藤村名主 佐兵衛

建具

一障子五拾四本 紛失

一戸拾八本 同断

一大戸式本 内潜付 同断

一戸拾六本 紛失

一襖九本 同断

一畳三拾九畳 同断

一内式拾三畳残り有之候

一四ツ足門壱ヶ所

是ハ引倒シ扉諸道具共打毀申候

一式間半四間土蔵壱ヶ所

戸前并壁諸々打破り雜穀粟稗麦都合三俵三

叭紛失仕候其外小道具も紛失員数相知不申

候

一式間式間半土蔵壱ヶ所

是ハ弁天安置致シ候尤書物一件戸棚ニ入置

處騒動ニ付年寄 諸帳面等書物一件持

出シ他家江取がくし給分無難有之候

右之蔵ニ入置候分

一書物たんす三ツ紛失仕候

右之外小道具入置候處紛失仕候

一向付膳椀三拾人前紛失

四ツ椀二十人前皿五十人前其外食須等込紛

失仕候

一四ツ組重箱六組紛失

一式間半ニ九尺味噌部屋壱ヶ所但シ土蔵江差掛

此内ニ而

味噌式樽 紛失

醤油式樽 同断

其外切破り候味噌四ツ五ツ明キ樽有増打こ

わし申候

一五間三間式尺収納小家壱ヶ所

是ハ少々壁打破り申候

一五間三間式尺収納小家壱ヶ所

是ハ壁少々打破り内加須炭拾俵御座候猶五

俵紛失

一居宅 収納小家之間

一四尺四方セツいん壱ヶ所

是ハ引倒シ申候や根ハ杉之河ふきニ御座

一車井戸壱ヶ所

是ハ車ヲ打破つりを落シ其外畳等打込申候

右申上候通相遠無御座候御見分被下成候通火た

き跡数ヶ所ニ御座候已上

天明四年辰二月

中藤村名主 佐兵衛

史料 D

天明四辰年三月

打毀 諸道具書上帳

多摩郡中藤村 与七

一建家壱ヶ所 梁間三間 桁行九間

中藤村百姓 与七

是ハ家江ハ一向さわり不申取出シ候建具不

残打毀申候尤戸障子員数左之通候

一雨戸八本 紛失 一障子四本 同断

一戸三本 同断 一襖四本 同断

一六枚屏風半ぞう同断 一式枚屏風壱ツ 同断

一明ヶ荷壱ツ 紛失 一ひつ壱ツ 同断

一つゝら壱ツ 同断 一硯箱壱ツ 同断

一箱壱ツ 十五入 同断

- 一膳碗二十人前 同断 尤皿ちやく共不残紛失
- 一鍋大小共都合七ツ 紛失
- 一か満壺ツ 同断 一葉鐘式ツ 同断
- 一鍬壺本 同断 一なた壺本 同断
- 一小麦壺俵 同断

(後欠)

史料 E

(前欠)

- 一挑灯 五ツ 右同断
- 一引臼 式ツ 但しためへ入申候
- 一硯箱 式ツ 右同断
- 一小□筆筒 壺ツ 但ししやうまい付 右同断
- 一すりうす 壺ツ やきすて申候
- 一き拵拾本 右同断
- 一大ちきり壺丁 右同断
- 一小ばかり 壺丁 相見へ不申候
- 一とふみ 壺ツ やきすて申候
- 一ます 三丁 相見へ不申候
- 一土蔵四ヶ所 不残戸前
- 内式ヶ所 式間半打毀申候
- 同 三間 式間半 四間
- 一荏油四十三本 但し三斗八升入打つぶし申候
- 一油明キ樽 三拾本 右同断
- 一穀ひつ 壺ツ はんまい入 右同断
- 但し四尺二九尺
- 一同 荏胡麻入 右同断
- 一油しほり道具 内 いらかま壺ツ ふかし
- かま壺ツ右式ツ打毀申候

- 一物置 三ヶ所 内式ヶ所 炭<sup>こ</sup>や
- 右者打毀申候

- 一但炭五百俵余 取出し打毀し申候
- 一俵物 五拾俵余

右ハ取出し切破申候

- 一下家 壺ツ 是ハ少々打毀申候
- 一六百二十式口 質物残候分

外札なし質物 二十五口

脇差式<sup>こ</sup>し

けさ □□ 是ハ壺口ニ

衣 壺<sup>ゑ</sup> 御座候

かや 壺つり

- 一鍬二十八丁 残り申候

- 一同ぬけ鍬 壺丁同断

- 一そうはん 壺ツ同断

- 一□□こき 二十八丁同断

- 一屋根はさみ 壺丁同断

- 一小のこ切 壺枚同断

- 一絹糸 札なし 壺口残り

六十四口分

雑穀六拾七俵 此口数三十口

残質物七百五拾壺口

惣質物口数

式千七百六拾四口

右之有質物差引 残り式千□□三口

是ハ不残やきすて申候

右之通り書上仕候下書写御尋ニ付書上仕候以上

天明四辰年三月八日

高木村名主当人 庄兵衛

【本資料の解説】

この事件当時の中藤村は、真福寺・長円寺領を除き三組に分かれていた。それは市郎右衛門組・佐兵衛組（以上二組天領）・源蔵組（私領）であった。そして、それぞれの組に名主がいたが、渡辺家は源蔵組の名主を勤め、被害者の一人である佐兵衛は佐兵衛組の名主であった。

A～Eの史料は渡辺家の文書であるが、被害者の文右衛門と五左衛門は市郎右衛門組、佐兵衛と与七は佐兵衛組、庄兵衛は高木村の名主であったから、この事件に限ってみれば、渡辺家との直接的な関係はなかったはずである。また、本物の打毀諸道具書上帳は提出済であり、その下書きは各家で保管されていたであろう

から、この史料は、渡辺家の当主市郎左衛門か、あるいはその命を受けた者が、各家の下書を写し取ったものであろう。このことは、①A～Eの五つの史料の筆跡が同じであること、②中藤村の三つの組は地域区分がなく混住していたこと、③史料Eの末尾に「下書写御尋ニ付」とあること、④このような大事件は名主として他組のことでも看過できなかったであろうことなどからも推測される。

A～Eの史料はかなり虫が食っており、特にCがひどい。したがって読解不能の箇所も多く、よくは分からないがどうやらその字らしいという箇所は、□の中にその字を入れた。たとえば<sup>處</sup>のようにである。

## 【本事件にかかわる他の史料】

本事件を解明するためにA～E以外の史料を紹介したい。

### a 「天明年間東国変乱覚書」 羽村市下田家蔵

この中の「武州村山大変次第之事」には、この事件の様子が細かく述べてある。やや名調子過ぎるのではないかと思われる箇所もあるが、中心資料として位置づけてよいであろう。村山町郷土史編纂委員会では昭和31年1月に孔版小冊子にまとめているが、当時は内部資料としていたので、現在では少数の人しか見ることができない。しかし、羽村町で、昭和55年3月に発行した「羽村町史史料集第五集天明一揆史料」の中に全文収録してある。

### b 「天明一揆の檄文」

この事件は、羽村の名主羽助と太郎右衛門および組頭伝兵衛の三人が相談することから始まる。そして、

## 【本事件についての論文等】

本事件は、天明一揆・天明4年村山地方打ちこわし・天明の打ちこわし・山王前のうちこわし等と呼称されているが、その論文等を紹介しておこう。

### 1. 「天明4年村山地方打ちこわしの社会・経済的基盤」

本論文は、大和町史研究8に載せられた辻光子氏の大変すぐれた論文である。打ちこわしの原因や参加者の階層、村役人層の打ちこわしに対する態度、被害者の実態、打ちこわしの経済的基盤等についての詳細な研究には教えられることが多い。

### 2. 「天明一揆史料」

この史料集は、羽村町史史料集第五集にあたるものである。天明一揆関係の史料がよく集められているが、それと共に、桜沢一昭・伊藤好一・辻光子諸氏の論文等も収録され、この事件を取り扱う者にとって参考になることが多い。

## 【事件の概要】

この事件の発端から結末まで、前記「武州村山大変次第之事」を中心にその概略を述べてみよう。

羽村の名主羽助・太郎右衛門、組頭伝兵衛の三人が集まって、「公儀よりのお触れ（前記史料d）にもかかわらず、商人たちが買占めや売り惜しみをして、人々を困らせている。なんとかしてこの難を救いたいものだ。」などと話し合った。伝兵衛が「私は70歳余りにもなったのではや生き過ぎた。私が音頭をとって諸人を助けよう。」というので、羽助は「村々へ人集め

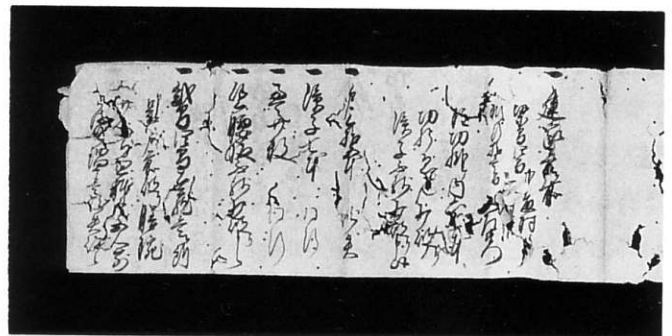
作った張札の内容が檄文（口上書）である。その文章からは、事件の原因等が読み取れ、重要な史料の一つになっている。上記「武州村山大変次第之事」に書いてあるが、村山町史や羽村町史にも引用されている。

### c 「豊饒碑銘」

この碑は、明治26年に建立され、羽村市禅林寺内にある。この事件（天明の一揆）を義挙として、一揆に殉じた9名の行為を称賛している。羽村の人々のこの事件に対する考え方をよく表現している史料である。前記の天明一揆史料や羽村町史にも収録されている。

### d 「天明三卯年関東大飢饉ニ付御廻状写」

この事件の前年に公儀より出された廻状である。米の買占めや打ちこわしなどを禁止しており、この事件の伏線となっている史料の一つである。前記の天明一揆史料や羽村町史にも収録されている。



史料B：打毀諸道具書上帳（中藤村五左衛門分）

### 3. 「各町史」

羽村町史、瑞穂町史、大和町史、村山町史がそれぞれの立場で取り上げている。特に羽村町史は発起人の立場で、瑞穂町史は宿村の立場で、大和町史や村山町史は被害者の立場で書かれていることが分かる。

の書付を捨て置いて、買占めの者共を打潰そう。」といった。そこで太郎右衛門が檄文の下書を作った。

三人は、仙川御上水陣屋で、太郎右衛門、源右衛門、要八、勘七、勘左衛門、政五郎たちに札を書かせ、出来上がった張札は、惣七、半七その他4～5人の者たちが、辰の2月26日の夜のうちに37か村を回って張ってしまった。

その張札には、「来る28日暮六つ（午後6時）から五つ（8時）までに箱根ヶ崎池尻（狭山池）に高100

石につき20人ほど集まれ、もし来ない村があったら、こちらから大勢押し寄せて乱暴するかもしれない。」と書いてあったので、狭山池の地元である箱根ヶ崎村は27日、他の村々は28日に役所に届け出た。しかし、役所の動きはなぜか鈍かった。

さて、28日の夜になると本稿の冒頭で述べたような事態になったのであるが、池尻に集まった者たちも、誰が音頭を取るのか、何を相談するのか分からなかったようである。しかし、しばらくして「原山才次郎」という声があったが反応はなく、次いで上がった「山王前」という声で動き出したことは前述の通りである。

打ちこわしに遭った被害者たちは、早速役所に届け出たが、これに対する幕府の動きは早かった。江戸両町奉行所の牧野大隅守、曲淵甲斐守がそれぞれ同心10名ずつを連れて、3月2日に江戸を出発して中藤・高木両村に向かった。

#### 【打ちこわしの被害者】

文右衛門は中藤村の百姓であった。日吉神社の前に住んでいたから「山王前」という屋号で呼ばれていた。穀類・油・肥料等の買売や酒造業・質屋を兼ねる在方商人で、盛時の持高は70石を越え、近隣では突出した富有振りであったという。この事件では、米穀類・肥料等の買い占め・売り惜しみが疑われたものである。

五左衛門は中藤村の百姓で、山釣という屋号で呼ばれていた。富有層ではなかったが、文右衛門の一族で、質物を隠していたために打ち壊されたいらしい。

佐兵衛は中藤村の名主であった。特に富有層ではなかったが、貧農層が採草地としていた丸山台を新田に開発してしまったために憎まれていたらしい。なお、佐兵衛家は、安永年間に中藤新田（現国分寺市）を開発している。

与七は中藤村佐兵衛組の百姓で、天保15年（弘化元年・1844）の宗門人別帳によると、高7石1斗2合の

#### 【本事件の考察と課題】

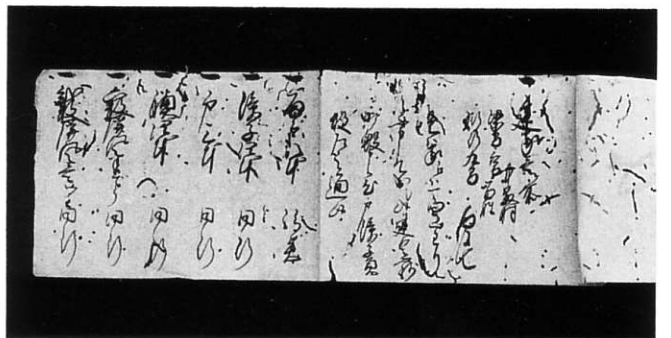
この打ちこわしの直接的動機は、天明の大飢饉とそれに便乗した在方商人の穀類・肥料等の買い占めであり、根本的原因は、商品経済の農村への浸透と支配組織の硬直化にあるといわれている。しかし、細部にわたって検討してみると、なお若干の課題がないわけではない。そのいくつかを列記してみよう。

1. 中藤村に例をとると、この地帯は水田が少なく畑作中心であったから年貢は金納であった。また、地味



史料C：打毀諸道具書上帳（中藤村佐兵衛分）

辰3月3日、羽村の名主小源太・羽助、組頭伝兵衛、百姓次郎左衛門の4人が捕まったのを手初めに、各村合計63名が召し捕られ、囚人として江戸に送られた。後日許されたり、新たに捕えられたりした者もあったが、獄死した者も多かった。前記羽村の豊饒碑には9人の死を記しているが、他の処罰の詳細は不明である。



史料D：打毀諸道具書上帳（中藤村与七分）

百姓代であった。なぜ襲われたのか不明である。

庄兵衛は高木村の名主であったが、米穀類・油等の売買や質屋を兼ねる在方商人でもあった。文右衛門と同様に買占め・売り惜しみに標的にされた。

才次（治）郎は中藤村原山の百姓であった。油の買売等もやっていたらしいが、この事件では名を挙げられたのみで、打ちこわしには遭わなかった。

の関係から多くの肥料を必要とした。したがって、穀類・肥料等を商う在方商人の存在は必須であった。

2. 打ちこわしの結果、召し捕られた者は20ヶ村近くの村々から63人余であった。しかし、中藤村は原山の嘉七、三ツ木村は残堀の安五郎外24人、横田村や岸村は皆無というように意外に少ない。捕われた数が参加者数に比例するとは限らないし、血縁・地縁による遠慮もあったであろうが、地元はあまり騒いでいない。

3. 佐兵衛が標的にされたのは、採草地を新田に開発して恨みを買ったからだといわれている。それを裏付けるかのように芋久保村では14人が召し捕られている。しかし、近世農業では肥料としての草が不可欠であったとしても、少々、便乗的打ちこわしの感が残る。

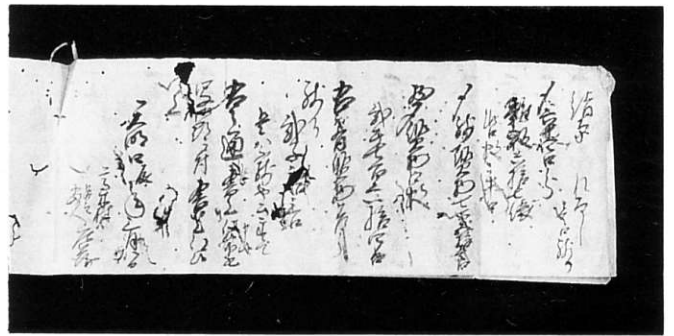
4. この事件の発端は、羽村の村役人層にある。しかし、池尻ではすっかり大衆に埋没していて、何ら音頭をとっていない。これは一般の百姓衆に主導権を取られたからであるという説が有力であるが、今一つ説得力に欠けるところがある。

5. 打ちこわしの目標は、なぜ場当り的に決められたのであろうか。また、近くの町場である所沢・青梅・扇町屋などには対象はなかったのであろうか。

6. 張紙を見つけるとすぐに伊奈半左衛門役所に届け

【あ と が き】 .....

A～Eの史料を紹介するにあたり、少々、解説を加えてみた。瑞穂町史は、天明・天保等の大飢饉を「近世最大の悲惨事」と表現しているが、それに伴う打ちこわしも、加害者・被害者共に、その悲惨事の一部であったと思われる。現在もこの地域に住んでおられる



史料E：打毀諸道具書上帳（高木村庄兵衛分）

出ているが、代官所の動きが緩慢であったのはなぜであろうか。在方商人の制裁に利用したという意見があるが、十分納得させるものにはなっていない。

7. 召し捕られた63人余の中で11人余は許されているが他の者の処分が明確でない。獄死者数も不明である。

子孫の方々に対しては、記述上失礼のないように配慮したつもりであるが、遺漏があったらお許し願いたい。

最後に、次の機関、諸氏に御教示いただいた。記して御礼申しあげる。

東大和市教育委員会 ・ 乙幡泉氏 ・ 村山美春氏



天明四年打ちこわし地区関係図

## 寄 贈 資 料 (平成2年10月1日～平成3年9月30日)

次の方々より貴重な資料を御寄贈いただきました。

| 区分<br>番号 | 寄 贈 者       |                    | 寄 贈 品    |     | 区分<br>番号 | 寄 贈 者 |          | 寄 贈 品   |       |            |       |   |
|----------|-------------|--------------------|----------|-----|----------|-------|----------|---------|-------|------------|-------|---|
|          | 氏 名         | 住 所                | 品 名      | 数量  |          | 氏 名   | 住 所      | 品 名     | 数量    |            |       |   |
| 1        | 加藤 政延       | 中央3-97-1           | 大 八 車    | 1   | 9        | 下田信太郎 | 三ツ木3-1-3 | 教 科 書   | 26    |            |       |   |
|          |             |                    | 釜        | 1   |          |       |          | 10      | 荒畑 芳旦 | 本町1-22-12  | 蚕 網   | 3 |
|          |             |                    | 踏 鍬      | 1   |          |       |          | 11      | 増尾 音治 | 三ツ木3-27-2  | 戸 長 印 | 3 |
|          |             |                    | まぶし織機他   | 3   |          |       |          | 12      | 鈴木 春  | 三ツ藤1-54-16 | 駒 下 駄 | 1 |
| 2        | 榎本 治作       | 本町2-3-1            | 徳 利      | 8   | 13       | 山崎 栄作 | 三ツ木2-3-1 | 写 真 他   | 4     |            |       |   |
|          |             |                    | 樽 形 徳 利  | 3   | 14       | 原田 拓夫 | 岸2-29-10 | 蔵土台(一部) | 1     |            |       |   |
|          |             |                    | 五玉ソロバン   | 1   | 15       | 永瀬 永由 | 本町4-31-1 | 石 臼     | 1     |            |       |   |
|          |             |                    | 長 火 鉢    | 1   |          |       |          | 茶 臼 他   | 3     |            |       |   |
|          |             |                    | 火 鉢 他    | 3   | 16       | 原山自治会 | 中央3-70   | 齊藤医院看板他 | 2     |            |       |   |
| 3        | 渡辺善一郎       | 中央2-20-1           | 石 器      | 2   | 17       | 豊泉 和良 | 岸3-4-1   | 長 持     | 1     |            |       |   |
| 4        | 神山 美雄       | 中央2-88-1           | 書籍(四書五経) | 48  |          |       |          | 臼       | 1     |            |       |   |
|          |             |                    | 書籍(神道書)  | 19  |          |       |          | の し 板   | 1     |            |       |   |
|          |             |                    | 書籍(地誌他)  | 75  |          |       |          | 釜       | 1     |            |       |   |
| 5        | 細井 五        | 三ツ藤1-49-4          | 書 籍      | 2   |          |       |          | ミ シ ン   | 1     |            |       |   |
| 6        | 水越 忠治       | 三ツ木3-40-2          | バ リ カ ン  | 1   |          |       |          | 蒸 籠     | 1     |            |       |   |
| 7        | 市立<br>第一中学校 | 本町2-76-1           | 高 札      | 3   |          |       |          | 座 卓     | 1     |            |       |   |
|          |             |                    | 竜 吐 水    | 2   |          |       |          | 鳥 籠     | 1     |            |       |   |
|          |             |                    | 書 籍 他    | 546 |          |       |          | 火 鉢     | 1     |            |       |   |
| 8        | 遠藤 浩        | 緑が丘<br>1460-88-307 | 高 札      | 1   |          |       |          | 牛乳用缶他   | 5     |            |       |   |

## 資料館利用状況 (平成2年4月1日～平成3年3月31日)

(1) 利用状況

(2) 年度別利用状況

| 区分<br>月別 | 開館<br>日数 | 利用者数   | 市 内   |       | 市 外   |       | 1日平均<br>利用者数 |
|----------|----------|--------|-------|-------|-------|-------|--------------|
|          |          |        | 人 数   | 割 合 % | 人 数   | 割 合 % |              |
| H2・4     | 23日      | 657人   | 354人  | 53.9% | 303人  | 46.1% |              |
| 5        | 24       | 722    | 466   | 64.5  | 256   | 35.5  |              |
| 6        | 19       | 343    | 154   | 44.9  | 189   | 55.1  |              |
| 7        | 25       | 1,030  | 544   | 52.8  | 486   | 47.2  |              |
| 8        | 26       | 1,377  | 747   | 55.9  | 590   | 44.1  |              |
| 9        | 23       | 558    | 288   | 51.6  | 270   | 48.4  |              |
| 10       | 24       | 1,118  | 496   | 44.4  | 622   | 55.6  |              |
| 11       | 23       | 1,381  | 654   | 47.4  | 727   | 52.6  |              |
| 12       | 21       | 562    | 303   | 53.9  | 259   | 46.1  |              |
| H3・1     | 22       | 907    | 591   | 65.2  | 316   | 34.8  |              |
| 2        | 22       | 988    | 650   | 65.8  | 338   | 34.2  |              |
| 3        | 25       | 1,519  | 1,012 | 66.6  | 507   | 33.4  |              |
| 合 計      | 277      | 11,122 | 6,259 | 56.3  | 4,863 | 43.7  |              |

| 年度     | 開館<br>日数 | 利 用 状 況 |        |         | 1日平均<br>利用者数 |
|--------|----------|---------|--------|---------|--------------|
|        |          | 市 内     | 市 外    | 合 計     |              |
| 昭和56年度 | 113日     | 3,504人  | 2,279人 | 5,783人  | 51.2人        |
| 昭和57年度 | 278      | 9,618   | 5,612  | 15,230  | 54.8         |
| 昭和58年度 | 279      | 9,316   | 5,221  | 14,537  | 52.1         |
| 昭和59年度 | 287      | 8,236   | 6,827  | 15,063  | 52.5         |
| 昭和60年度 | 278      | 8,103   | 6,209  | 14,312  | 51.5         |
| 昭和61年度 | 284      | 8,762   | 5,915  | 14,677  | 51.7         |
| 昭和62年度 | 279      | 7,829   | 6,523  | 14,352  | 51.4         |
| 昭和63年度 | 277      | 7,500   | 5,967  | 13,467  | 48.6         |
| 平成元年度  | 277      | 6,430   | 6,035  | 12,465  | 45.0         |
| 平成2年度  | 277      | 6,259   | 4,863  | 11,122  | 40.2         |
| 合 計    | 2,629    | 75,557  | 55,451 | 131,008 | 49.8         |